

伊賀市議会だより

No.79
2024.11.1

行ってみよう 聞いてみよう！



令和5年度決算

チェック！次に生かす 決算審査・・・ P2～3

<主な掲載内容>

9月定例会議	P 4
10月緊急会議	P 6
市政を問う一般質問	P 7
活動報告 常任委員会、議会運営委員会	P12
タウンミーティング、中学生議会	P14、15
インタビュー 人と地域がつながってイキイキ活動紹介	P16

令和5年度決算

チェック!

質 疑 (分科会)

総務分科会 (9月13日)

今後の住民自治協議会への財政支援は(総務費)

問 今後の住民自治協議会への財政支援についての見解は。

答 住民自治協議会に対し、地域包括交付金をはじめとする財政支援をしています。地域包括交付金は、平成30年度に策定した基準額に基づき段階的に削減してきました。一方、地域の中でより主体性をもって活動に取り組んでいただく目的で「キラッと輝け!地域応援補助金」を創設しました。この地域包括交付金は、令和6年度から基準通りの額で運用となり、今年度から3か年かけて地域包括交付金や「キラッと輝け!地域応援補助金」をはじめとする財政支援の在り方を検証し、地域の声も聴いて見直しを図っていきます。



伊賀市環境保全負担金条例の見直しは(衛生費)

問 環境保全対策事業において、伊賀市環境保全負担金条例の見直しを行うとあるが、どういう問題意識と方向で見直そうとされるのか。

答 一般廃棄物を10年以上長期に搬入を続けている団体があるため、条件を厳しくするか環境保全負担金を値上げするかなどの検討を進めています。



産業建設分科会 (9月17日)

農業委員会委員の報酬は(農林業費)

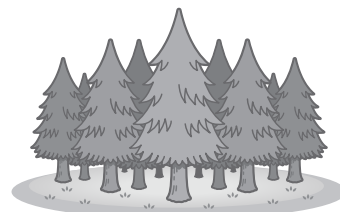
問 農業委員会委員報酬の内訳と業務内容は。

答 農業委員24人、農地利用最適化推進委員56人の計80人の報酬で、一般委員は月額10,000円です。主な業務内容は、農地転用の許可、利用権設定の承認、「地域計画」策定に伴う協議の場合への出席等の業務です。

森林境界明確化の進捗状況は(農林業費)

問 森林境界明確化事業、森林作業道整備事業の内容は。

答 森林境界明確化事業は、森林組合により実施され、順調に事業を進めています。森林作業道整備事業は、市内の森林整備、木材の集材及び搬出を促進するための事業です。令和5年度は、この事業の補助金を15人が利用しています。



「道の駅いが」給油所跡地の有効利用を(サービスエリア特別会計)

問 伊賀サービスエリア(道の駅いが)給油所跡地の利用促進策についての検討状況は。

答 国土交通省の担当者や地域の関係者等と検討しており、定住自立圏との連携も含め、活性化に向けイベント等の実施を考えています。

次に生かす 決算審査

教育民生分科会（9月18日）

避難行動要支援者支援事業（民生費）

問 避難行動要支援者リストへの登録未同意者523人への対応は。

答 同意するかどうか回答していない未同意者には、毎年通知を送付し、再勧奨しています。

介護用品等給付費の申請（介護保険事業特別会計）

問 介護用品等給付費の申請の周知状況は。

答 高齢者福祉サービスガイドブックの各所への配置や広報などの活用を行い周知しています。



不納欠損額の増加（病院事業会計）

問 不納欠損額が前年度と比較し大幅に増加しているが、時効ではなく本人の支払いが経済的に不可能ということで不納欠損としたのか。

答 収税課と協力して債権の回収と整理を行ったことにより、増額となりました。時効の援用や生活困窮によるもの、また、相続人が不在のものなどを含めて不納欠損処理をしました。

一般会計 討論（本会議 9月30日）

反 対 前年度を大幅に上回る2億2,500万円の不納欠損処分をしている。支払い能力のない人には妥当だが、支払い能力のある人が時効の援用により支払いを免れることも考えられる。
また、多額の収入未済額が発生していたことも問題。収入未済額は、不良債権化する可能性もあり、市の財政運営にも影響を及ぼす。実態に即した納付相談を行うなど新たな収入未済額を発生させない取り組みを求める。
伊賀市奨学金と同和奨学金の一本化が行われておらず、前年度と同様の同和関連予算が執行されているため反対。

監査委員の意見要旨

本年度決算の結果、一般会計と特別会計を合わせた会計全体の実質収支は11億2,100万円の黒字（前年度比48.3%）となり、前年度を下回っているものの、概ね適正な執行状況であると認められます。また、各企業会計についても、経営成績及び財政状況については適正であると認められます。

一般会計については、引き続き、行財政改革を進めるとともに、限りある財源や、物的並びに人的リソースを最大限に有効活用する中で、公共施設最適化計画に基づく保有財産の活用や処分、伊賀市ふるさと応援寄附金の増加、また、国・県の補助制度や助成制度を積極的に活用した財源の確保等、あらゆる収入確保の取り組みを継続しつつ、事業効果の検証に基づいた「スクラップ&ビルド」と「選択と集中」により、必要な事業を着実に推進することで、効果的かつ効率的な予算執行と経費の節約を図り、計画的で持続可能な財政運営に努められたい。（監査委員 岡森 正人・北森 徹）

審議した議案と各議員の賛否

○：賛成 ×：反対 ー：西口議員は議長のため採決に入っていません。

件名		賛成 ： 反対	議決結果	北山太加視	釜井敏行	西條工リ子	西田方計	増田雄	森中秀哲	福村教親	川上善幸	北森徹	西口和成	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	市川岳人	赤堀久実	田中 覚	上田宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳	
市長 提出議案	令和5年度伊賀市一般会計歳入歳出決算の認定	18：3	認定	○	×	○	○	○	○	○	○	○	一	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	
全員賛成で認定した議案																										
市長 提出議案	●令和5年度伊賀市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和5年度伊賀市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和5年度伊賀市介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和5年度伊賀市サービスエリア特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和5年度伊賀市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定													●令和5年度伊賀市島ヶ原財産区特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和5年度伊賀市大山田財産区特別会計歳入歳出決算の認定 ●令和5年度伊賀市病院事業会計決算の認定 ●令和5年度伊賀市水道事業会計決算の認定 ●令和5年度伊賀市下水道事業会計決算の認定												



伊賀市行政サービス巡回車の運行及び管理に関する条例の一部改正

全員賛成で
可決

行政サービス巡回車を、より地域ニーズにあった便利なものとするため、島ヶ原地域と小田町を結ぶデマンド型の運行エリアを「上野市駅」まで拡大します。

質疑（総務常任委員会 9月13日）

問 今回、ルート変更以外でも受付方法や受付時間などの変更はあるのか。

答 巡回車の運行開始以降、島ヶ原まちづくり協議会の協力を受け、受付業務を委託していましたが、運行の受付時間帯の拡大など実証運行の効率化と利用者の利便性を更に図るため受付業務を運行事業者へ変更します。また、受付時間も朝は午前8時30分から、夕方は午後5時まで、前日予約も昼12時まで受付時間を拡大します。

問 行政サービス巡回車の終点を上野市駅までルート変更することで、他の交通機関との接続性はどうか。

答 上野市駅から市民病院へ向かう「にんまる」や、伊賀鉄道への連絡、更にはタクシー利用など選択肢が大きく広がるものと考えています。



工事請負契約の変更

全員賛成で
可決

青山中学校の大規模改修工事の契約金額を、雨漏りによる改修範囲の追加や校舎西側倉庫の撤去などの理由により671万5,500円増額します。

質疑（教育民生常任委員会 9月18日）

問 6月に変更契約をしたばかりなのに、なぜ、この短期間にまた契約変更をするのか。

答 今回の増額は、夏休みに入り、内部改修工事が本格的に行われ、それに伴う変更内容が増えたことが要因です。

問 倉庫の倒壊の恐れなど、なぜ事前に分らなかったのか。

答 設計の段階で、もう少ししっかり精査するべきであったと反省しています。

令和6年度一般会計補正予算（第4号）

2億6,667万円の増

全員賛成で
可決

新型コロナウイルス感染の拡大傾向に対処するための定期接種に係る経費、旧青山支所跡地の整備に係る経費、上野公園内の公衆トイレ改修に係る経費などについて増額を行うほか、国、県の補助事業の追加、変更等に伴う所要額の補正。

【主なもの】

○旧青山支所跡地整備事業	895万8千円
○予防接種業務経費	1,829万4千円
○公園施設維持管理経費	305万9千円
○消防操法大会出場経費	625万1千円

債務負担行為

○にぎわい忍者回廊PFI事業経費（R6年度～R24年度）	3億2,858万8千円
------------------------------	-------------

討論（本会議 9月30日）

賛成 にぎわい忍者回廊PFI事業について、連結散水設備の設置や防火扉等の設置自体は、安全上必要なものであるため賛成するが、それらは本来であれば当初の設計に組み込んでおくべきであったと考える。今後は、事前の関係法令との照合や関係機関との協議を十分に行うことを求める。

請願

請願文書表と議員提出議案は、市議会ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

伊賀市議会ホームページ二次元コード▶



大山田東グラウンド及び体育館の指定管理の終期延長

全員賛成で
採択

【請願者】 阿波地域住民自治協議会 会長 橋本 隆 外7名

【紹介議員】 釜井 敏行、西條 エリ子、西田 方計、北森 徹、福岡 正康、上田 宗久

「再審法改正を求める意見書」採択に関する請願

【請願者】 三重弁護士会 会長 長谷部 拓哉
【紹介議員】 釜井 敏行、西條 エリ子、増田 雄、森中 秀哲、北森 徹、赤堀 久実
【意見書提出先】 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、法務大臣

全員賛成で
採 択

○義務教育費国庫負担制度の充実を求めること

○教職員の欠員を速やかに解消する施策の実行および教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求めること

○子どもをめぐる貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求めること

○防災対策の充実を求めること

【請願者】 伊賀市PTA連合会 会長 内田 真 外2名
【紹介議員】 北山 太加視、西田 方計、福岡 正康、宮崎 栄樹、山下 典子、上田 宗久、中岡 久徳
【意見書提出先】 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、内閣府特命担当大臣（防災）（「防災対策の充実を求めること」に関してのみ）

全員賛成で
採 択

議員提出議案

伊賀市議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定

令和4年12月、地方自治法が改正され、市に対する議員個人の請負については、各会計年度において支払いを受ける請負の対価の総額が300万円を超えない者は、規制の対象から除くこととされました。議員の職務執行の公正、適正を損なわないよう、請負状況の透明性を確保するため、請負状況を公表することなどを定めた条例を制定します。

全員賛成で
可 決

合成香料に起因する健康被害対策の推進を求める意見書の提出

合成香料に起因する健康被害対策の推進を求める意見書を国の機関等へ提出します。

全員賛成で
可 決

審議した議案と各議員の賛否

9月定例会会議

○：賛成 ×：反対 ー：西口議員は議長のため採決に入っていません。

件名		賛成：反対	議決結果	北山太加視	金井敏行	西條エリ子	西田方計	増田雄	森中秀哲	福村教親	川上善幸	北森徹	西口和成	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	市川岳人	赤堀久実	田中 覚	上田宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳			
市長 提出議案	伊賀市国民健康保険条例の一部改正	19：2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○			
	三重県後期高齢者医療広域連合規約の変更に 関する協議	19：2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○			
全員賛成で可決（同意・採択を含む）した議案																												
市長 提出議案	●令和6年度伊賀市一般会計補正予算（第4号） ●令和6年度伊賀市介護保険事業特別会計補正予算（第1号） ●令和6年度伊賀市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号） ●令和6年度伊賀市病院事業会計補正予算（第1号） ●伊賀市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正 ●伊賀市行政サービス巡回車の運行及び管理に関する条例の一部改正 ●伊賀市過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の特例に関する条例の一部改正												●伊賀市子ども・子育て会議条例の一部改正 ●伊賀市指定ごみ袋の買入れ ●財産の処分 ●工事請負契約の締結 ●工事請負契約の変更 ●定住自立圏形成協定の締結 ●人権擁護委員候補者の推薦（内田 香代 氏、山森 裕美子 氏）															
	●義務教育費国庫負担制度の充実を求めること ●教職員の欠員を速やかに解消する施策の実行および教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求めること ●子どもをめぐる貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求めること												●防災対策の充実を求めること ●大山田東グラウンド及び体育館の指定管理の終期延長 ●「再審法改正を求める意見書」採択に関する請願															
議員 提出議案	●伊賀市議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定 ●合成香料に起因する健康被害対策の推進を求める意見書の提出 ●刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書の提出 ●義務教育費国庫負担制度の充実を求める意見書の提出												●教職員の欠員を速やかに解消する施策の実行及び教職員定数改善計画の策定・実施と教育予算拡充を求める意見書の提出 ●子どもをめぐる貧困対策の推進と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求める意見書の提出 ●防災対策の充実を求める意見書の提出															

事業契約の変更

全員賛成で
可決

「伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）に関するPFI事業」に係る事業契約について、事業契約締結後に判明した工事費の追加及び物価高騰による価格改定を行います。

議員提出議案

伊賀市議会の解散に関する決議

全員賛成で
可決

令和6年10月15日をもって伊賀市議会を解散する決議を可決し、伊賀市議会は解散しました。

（決議文）

平成16年11月1日に1市3町2村が合併して伊賀市が誕生したが、その際、旧市町村の全議員を伊賀市議会議員として引き続き在任とする特例を適用し、議員の任期が延長されたため、伊賀市長の選挙後約5か月という短期間のうちに市議会議員選挙が執行され、合併から20年が経とうとしている。

少子高齢化や人口減少が進むなか、社会保障等に伴う扶助費の増大、また、公共施設等の老朽化に伴う整備など、伊賀市においても解決すべき課題が山積しており、限られた財源のなかで行政サービスを継続していくためには、行財政改革が求められるところである。

こうした中、二元代表制の一翼を担う私たち議会においても、市民の負託に応えることを最優先とし、議員定数の削減など不断の議会改革に取り組んできたところである。令和5年10月には市議会議員一般選挙を市長選挙に併せて同時に執行するための措置を講ずる決議を可決し、更なる改革の取組を進めてきた。

この度、自ら約5か月の任期を残し自主解散を行い、市議会議員一般選挙と市長選挙を同時に行うことを選択することは、投票率の向上や事務の効率化、ひいては歳出の削減により行政サービスの向上に資するものである。

よって、令和6年11月に執行予定の伊賀市長選挙に併せて伊賀市議会議員一般選挙が同時に執行できるよう、地方公共団体の議会の解散に関する特例法第2条の規定に基づき、令和6年10月15日をもって伊賀市議会を解散する。

以上、決議する。

審議した議案と各議員の賛否

10月緊急会議

○：賛成 ー：西口議員は議長のため採決に入っていません。（発議第15号を除く。）

件名		賛成・反対	議決結果	北山太加視	釜井敏行	西條工子	西田方計	増田雄	森中秀哲	福村教親	川上善幸	北森徹	西口和成	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	市川岳人	赤堀久美	田中覚	上田宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳
市長提出議案	事業契約の変更	21：0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専決処分の承認（令和6年度伊賀市一般会計補正予算（第5号））	21：0	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員提出議案	伊賀市議会の解散に関する決議【発議第15号】	22：0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

選挙管理委員会委員・補充員を選出

9月30日の本会議において、令和6年12月23日に任期満了となる選挙管理委員とその補充員の選挙が行われました。選出された方は次のとおりです。

なお、任期は、令和6年12月24日から令和10年12月23日までの4年間です。

選挙管理委員
池口 法行 氏
山本 義嗣 氏
田森 清繁 氏
奥井 肇久 氏

補充員
順位第1番 藤田 建五 氏
順位第2番 成瀬 潤子 氏
順位第3番 南 徹雄 氏
順位第4番 松井 隆昇 氏

※補充員は、選挙管理委員が欠員となったとき、順位に従って選挙管理委員となります。

市政を問う

一般質問

一般質問は、9月10日、11日、12日の3日間で、16人の議員が市政に対して質問をしました。その主なものを掲載しています。

二次元コードからは、各議員の一般質問の動画（YouTube）をご覧ください。

にしだ みちかず 西田 方計 議員

質問項目

- 市民の土地差別意識の現状と対策
- サル被害対応の現状と対策
- 「地域学校協働活動」の現状と課題



問 県内で発生した土地差別事象についての認識と対策は

教育公務員による土地差別の件は他人事ではありません。市民意識調査の結果も合わせ看過できるものではありません。

答 市民啓発の充実とともに、宅建業者への対応も強めます

市外での事象とはいえ言語道断です。11月頃、市内業者に対し実態調査を実施し現状を把握した上で啓発を充実させます。

問 移動するサル群による被害の抑止・低減への対策は

サル群に発信機が付いていても受信できなければ無意味です。受信機の貸与を。

答 受信機を市で購入し貸与・活用します

目視等の通報に加え受信機の活用を強め、市民とともに広域での情報収集・提供の流れを活かし協力して対応します。

問 統合で学校が無くなった地域の教育力を活かす方策は

地域コーディネーター等のありようは。

答 各校の地域支援本部を核に学校と地域の協力・連携を強めます

社会教育からの視点を大切に、地域と学校が協働することを目標に進めます。

問 阿波地域の産業廃棄物処分場建設計画を阻止するのか

阿波地域で安定型産業廃棄物処分場の建設計画は、処分場からの有害物質の流出の危険性等の理由から、容認できないと考えます。

市長として反対の民意を受けて、法令や条例を使い阻止していきますか。

答 権能に限りがあります

個人としては阻止したいですが、市長の権能には限りがあります。

問 10年先を見据えた住民自治を考えるべきでは

住民自治協議会が発足して20年が経過しました。住民を取り巻く環境が大きく変化しており、今後も人口減少や高齢化により、地域コミュニティの持続や高齢者が安心安全に暮らせる環境の確保等への対応がより大変になることが予想されます。

そうした中、これまでの地域と行政の取り組みを検証するとともに、現状を把握・分析して、10年先を見据えた対策を考える必要がありますか。

答 議論を行うべき時がきています

今年度は地域に出向き、20年間の検証から始めていきたいと思います。

みやざき えいき 宮崎 栄樹 議員

質問項目

- 持続可能な住民自治のために市は何をするのか
- 阿波地域の産業廃棄物最終処分場建設計画に対する市長の姿勢は



いちかわ がくと 市川 岳人 議員

質問項目

- 産み育てやすい伊賀市
- 高齢者も安心して暮らせる伊賀市



問 「(仮)伊賀周産期等医療体制懇談会」を設置すべきではないですか

名張市唯一の出産可能医療機関が来年から分娩中止となり、伊賀地域の出産可能医療機関が2施設に減ります。

安心して出産できる体制づくりを計画的に進めていくべきではないですか。

答 今後も市内産科医療機関と産科医療について情報共有する場を設ける等、引き続き安心して出産できる体制づくりに努めてまいります

問 「eフレイルナビ」を導入すべきではないですか

地域から孤立しがちな一人暮らしのお年寄りを地域において見守り、サポートしていく必要があります。

三重県東員町のように「eフレイルナビ」を導入すべきではないですか。

答 研究を進めています

このサービスは早期にフレイル状態の人を発見し、適切なタイミングで効果的に介入することで健康寿命を延ばし、長期的には介護保険サービス費の縮減も期待されます。伊賀市では既に効果や課題、他自治体の例も参考に研究を進めています。

一般質問

かわかみ よしひで
川上 善幸 議員

質問項目

●これからの公共交通の形



問 市長が思い描く伊賀市の未来の公共交通の形とは

答 バス交通の時代は終わったと思っています（市長）

バスでの大量輸送の時代は終わりました。これまでの交通手段、手法にとらわれず交通弱者がストレスなく移動できることが理想。

行政、市民、地域、事業者、企業が協力連携のもと、これまでのバス、タクシーに加えてライドシェアやスクールバス混乗、福祉有償運送、医療、買い物の送迎バスなど、あらゆる移動手段を活用しネットワークを構築する必要があると思います。

問 廃止代替バスを廃止した場合の移動手段を

住民自治協議会では自分達の地域は自分達でなんとかしようという動きがあります。動きのある地域へはどのような説明をしていますか。

答 地域の実情に合わせて地域運行バスの話もしています

地域によって状況は様々で、廃止代替バス再編の可能性や地域主体でのライドシェアやデマンド運行など新たな運行手法が可能となるような制度の構築を進めます。

問 民営化される大山田保育園の運営について

伊賀市立大山田保育園民営化事業募集要領で運営に関する条件として、保育園の名称・定員及び受入年齢・保育事業の継承等・保育事業の拡充・職員配置・給食・職員の資質向上・保護者負担金等が記述されていますが、譲渡後正式な取り決めがなされていますか。

また、保育業務の引継ぎ期間の伊賀市保育士の派遣受入はどうなっていますか。

答 民営化移管前協議書を締結しました

募集要領で運営に関する条件が定めら

れ、それを守った提案がされているので、その内容で覚書を締結します。地域の方にも必要に応じて情報提供をします。

職員の派遣については、三者協議会でも十分協議して、令和7年度の保育に支障の無いように連携していきます。

問 伊賀市の高齢者への支援方法は

特に高齢者が多く占める老人クラブに対する支援はどうするのですか。

答 高齢者輝きプランで重要施策として位置づけています

ふくおか せいこう
福岡 正康 議員

質問項目

- 台風等に備えた伊賀市の防災体制
- 伊賀市立大山田保育園の民営化
- 高齢者福祉における高齢者への自覚の喚起と伊賀市の支援



うえだ のりひさ
上田 宗久 議員

質問項目

- 将来につなげる伊賀市消防団活性化計画
- 持続可能な伊賀米生産のために



問 消防団員の現状と定員の見直しについてお聞かせ下さい

答 人口減少と若者の流出・地域活動に対する意識の希薄化などにより消防団員の確保が困難となっています

本年度の団員数は、条例定数1,410名に対して実団員数1,353名で昨年度と比較して5名の減少です。

条例定数については、令和9年度までの計画期間中は変更する予定はありません。

問 令和6年度産米概算金の大幅な値上がりに対して市はどのような評価をしていますか

答 営農意欲の向上と遊休農地の減少にも期待しています

JAいがふるさとが決定した概算金は、伊賀米定義のコシヒカリが1等米で60kgあたり18,500円となり昨年の米不足の影響や生産資材の高騰により昨年度産と比較して5,100円の値上がりとなりました。

このため、市内生産者にとっては、経営の安定化につながると受け止めていますが、一方では米の販売価格の上昇が予想され、昨今の物価高騰による消費量への影響が懸念されます。

一般質問

きたやま たかし
北山 太加視 議員

質問項目

- 差別や偏見に対する行政の取り組み
- 小規模な緑地・小公園の管理
- 市街地の下排水管整備



問 差別や偏見に対する行政の取り組みは

広報の「人権について考えるコラム」の活用と人権意識高揚のための具体的な行動を。

答 コラムは人権について考える機会を提供する重要なツールの一つ。若い世代向けの啓発動画の配信等も検討します

令和5年度の上野管内における地区別懇談会は、16地区・627人の参加、年代別では30代以下が3%に止まります。社会生活上の差別事象報告も直近の2年間で19件、本年も1件発生、部落差別が13件、女性や障がい者に対する差別4件など

あります。

問 小規模な緑地・小公園の管理の在り方及び市街地の下排水管整備は

公園管理上の相談状況はいかがですか。また、老朽化した雨水管の更新は優先課題ではありませんか。

答 公園管理上の問合せは年間数件、市街地の雨水管更新の重要性は認識しています

公園での除草剤使用や支援制度の問合せ等を受けます。

市街地の雨水管は約130kmに及び、予防保全により寿命を延ばしつつ更新事業に繋がります。

問 介護用品購入費給付事業の拡充を

この事業は、在宅で生活されている失禁状態にある要介護1～5の認定を受けている高齢者等が使用のおむつ等の購入費の一部を助成する事業です。

助成額は、要介護1～2の場合ひと月当たり最大4,000円、要介護3～5の場合最大5,000円です。

また、補助対象は、紙おむつ・紙パンツ・尿取りパッドのみで、防水シートやおしりふきは対象外となっています。

対象商品を増やし、助成額の上限を上げる等拡充についての考えは。

答 次期の高齢者輝きプランの策定時に考えます

この事業は、特に使用頻度が高く経済的負担が大きい3品に限定して対象としています。助成額は、介護保険の負担割合に応じて、7割～9割を助成しています。

令和3年度に要介護3～5の人を対象とした見直しで助成額を増額していることから、すぐに増額とはいきませんが、次期の高齢者輝きプランの策定時に品目の追加・助成額等について考えていきたいです。

やました のりこ
山下 典子 議員

質問項目

- 介護用品購入費給付事業
- 子ども政策
- 空き家対策
- 公共交通の利便性向上



ますだ たけし
増田 雄 議員

質問項目

- 次世代へ繋ぐにぎわい関連施策



問 無形民俗文化財の道具や装飾品の保存活用を

無形民俗文化財で使用する道具や装飾品にも有形文化財的な価値があります。

特に引退品の保存活用を考えるべきです。

答 適切な保存をお願いするとともに、美術博物館での保存・展示も考えます

方法の一つとして、検討を進めている美術博物館で、より適切に保存し、展示により活用することも考えられます。

問 市街地観光における「伊賀者横丁」の実現を

伊勢のおかげ横丁のような「伊賀者横丁」

を実現させてはどうでしょう。

答 現在、関係者等へのヒアリングを進めています

回遊性を高めるための取り組みが必要です。関係部署が連携し、民間の力もいただきながら進める必要があります。

問 市街地での汚水処理に、再度、公共下水道やコミュニティプラントの検討を

答 市民の間でコンセンサス（意見の一致）ができれば、やぶさかではないと思います

下水道というのは、100%に近い参加意向がないとできないという事業です。

一般質問

ももがみ まな 議員
百上 真奈

質問項目

- 地方自治法の一部改正と団体自治、住民自治
- 市営住宅の管理および整備



問 国の指示権拡大に対する考えは

地方自治法の一部改正により、個別法に規定がなくても国が判断し閣議決定すれば、自治体への指示権発動が可能となりました。地方自治の本旨を損なう恐れのある指示権拡大について市長の見解を伺います。

答 国と自治体の関係を上下・主従の関係に変える恐れがあります

大規模災害やパンデミック（感染爆発）などの際には、既存の個別法で対応できるものと考えます。

問 市営住宅のトイレの洋式化を

健康で文化的な生活を営むに足る市営

住宅の提供は、市の責務です。計画で「改善」としている市営住宅のトイレの水洗化、洋式化を進めてください。

答 現在、防水工事を優先して行っています。

問 入居実態の把握状況は

改良住宅の入居実態の把握状況を伺います。

答 アンケート調査で77.9%把握しました

収入申告のない住宅のため入居時の請書しかなく、入居者移動が把握できないまま今日に至っています。引き続き100%の把握を目指します。

問 「旧ふれあいプラザ」の工事は進んでいるのですか

上野中町「旧ふれあいプラザ」は3年前、提案審査を経て介護サービス事業者に売却されました。事業者が有料老人ホーム等として整備し、地域活性化のため、契約後3年以内にスーパー等店舗を1階に設置する条件でした。11月には契約上の開業期限が到来します。中心市街地住民の買い物事情はますます厳しくなっていますが、現状はどうなっていますか。

答 改修事業は進展していません

事業者は現在までスーパー等36社と出店交渉しましたがまとまらず、その影響もあり、計画より遅れています。

問 市長3期目の公約だったはずですが

市と事業者が協力し、3期目の間に完成する努力をもっとするべきではなかったのですか。

答 4期目でやります(市長)

十分な提案審査を経て選んだ事業者が事業の主体で、市にできることは限られていました。期限到来後、公約遂行を前提に最善の選択肢を選び、4期目で成し遂げます。

もりなか ひであき 議員
森中 秀哲

質問項目

- 「中心市街地活性化策」を「不発」に終わらせないために



さいじょう えりこ 議員
西條 エリ子

質問項目

- 伊賀市の健康、医療政策
- 伊賀市の道路インフラ整備
- 伊賀市の農業政策



問 HPVワクチンのキャッチアップ接種が24年度で終了します伊賀市の接種状況は

答 市内のHPVワクチンのキャッチアップ接種状況は、対象4,015人のうち3回の接種完了が1,240人。さらに1回目の接種完了が319人となります

問 子宮頸がん検診検査のHPV検査単独法を導入する考えは

令和6年2月に国指針が改正され、現在の子宮頸がん検診の細胞診に加えHPV検査単独法が適用になりました。市の導入についての見解を伺います。

答 導入については準備が必要なため情報収集をしていきます

問 定住自立圏加入の名張市との医療体制での連携の見解を伺います

答 伊賀地域全体として、これまで以上に各関係機関や基幹病院と連携を図りながら、それぞれの強みを活かして、安心安全な医療体制を提供できるよう努めていきます

既に両病院においては、初期研修医や指導医の交流など相互の医療の質の向上を図ることで合意しています。

一般質問

か ま い と し ゆ き
釜井 敏行 議員

質問項目

- 災害に強い地域づくりのために
- 安心して働き続けられる市役所にするために
- 市民みんなの人権が尊重される伊賀市のために



問 外国籍の方の消防団への受け入れ体制は

答 現在1名在籍しています
今年度中に活動できる範囲が整理されるので、団員確保や活性化につなげます。

問 市役所におけるカスタマーハラスメント対策は

市役所におけるカスタマーハラスメントを防止し、市民・職員の双方にとって居心地の良い市役所にするために、どのような対策を行いますか。

答 何が有効かを研究して対策を行います

市民に対しての基本的な接遇力を高めま

す。話の会話内容を録音する旨の案内を流すなど、様々な方法を研究し、対策を考えます。

問 今後の同和課のあり方は

県内で同和問題に特化した単独の課があるのは、伊賀市だけです。

今後人権政策課との統合などを進める考えはありますか。

答 みなさんが納得して決めていくことです

市長の独断専行ではなく、市民皆が納得して決めていくことです。地域の課題や歴史を踏まえ、どのようなあり方が良いのかを考える時期にきています。

問 身寄りがない高齢者等への総合的な支援を市で取り組みを

身寄りがない高齢者等のお困り事として「入院や入所の身元保証人がいない」「日常生活において重要書類の保管や生活費の管理」「死後の葬儀・納骨・法要の支援、残存家財・遺品の処分」などがあります。現在、民間業者において有料で代行サービスを行っていますが、利用開始時に必要な額が少なくても100万円以上かかるため、一定の収入・資産がなければ利用できません。

そこで、国は「持続可能な権利擁護支援モデル事業」として、このようなお困り事を総合的パッケージで試行的に提供する取

り組みを予算化しています。

5年、10年先を見たとき、必ず必要になってくる事業だと思います。市として取り組むべきだと思いますがいかがですか。

答 我が事として取り組んでいきます(市長)

市として、ご相談もいただいておりますので、大変重要なことだと認識しています。様々、研究・検討して取り組んでいきます。

あ か ほ り く み
赤堀 久美 議員

質問項目

- 認知症の人に寄り添った地域社会の構築
- 身寄りがない高齢者等への支援



ふ く む ら の り ち か
福村 教親 議員

質問項目

- 伊賀市の民主主義



問 令和3年度伊賀市議会議員選挙を受けて

中間発表時に得票数に修正が入りましたが、その原因と再発防止策は。

答 再確認を徹底します

投票用紙の84票の束を100票の束と間違えて結束してしまい次の工程に進んでしまったためです。100票結束後に他の者で再確認をして再発防止を徹底します。

問 氏名記載以外の投票方法を

記載ミスでの無効票が多くあったため、記号方式の投票を導入できませんか。

答 今は考えていません

不在者投票・期日前投票等には使用でき

ず、立候補者が多数の場合は文字が小さくなるなど課題が多いためです。

問 選挙立会人について

条件と選出方法は。

答 人数は10人以内と定められています

職業等その他の条件は特に定められていません。10名以上の届出があった場合は日時をお知らせした後、選挙長がくじで決定します。

前回の選挙結果を教訓に、改善・再発防止に努めてまいります。

一般質問

たなか さとる
田中 寛 議員

質問項目

- 何んのために
(行政目的を正す (後編))



問 にぎわいと税収の関係は

岡本市政の12年間、決算も税収も横ばいで伸びていません。つまり、にぎわいは創出されていなかったと言えます。

答 年間1,200人以上の人口が減少しています

様々な指標から、例えば、市内総生産額は県内5番目で、総生産額は上昇傾向にあり、市内のにぎわいは創出されていると考えます。

問 しかし、市民アンケートでは、38の施策の内、21は不満足でした

しかれば、にぎわいが取り戻せた、税収が上がったとするならば、その分を住民

サービスに投入すれば、さらに活性化したと言えますか。

答 そのとおりです

税収や財政調整基金を有効活用し、皆様の要望を実現していきます。

問 税収を得る努力が必要です

阿山地区の国・市有地とデータセンターや物流施設、いがまち地区とリニアと連携、青蓮寺用水開畑地の再開発など今から準備をすべきで、そのために土地利用の制約を廃止すべきです。

答 均衡ある開発が観点です

手法の違いです。

☆一般質問☆ 本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。



活動報告

常任委員会市政に提言

提言書は、市議会ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

伊賀市議会ホームページ二次元コード▶



総務常任委員会

行政視察を踏まえ提言書を提出

指定管理者制度について

東京都板橋区及び荒川区の調査

伊賀市では、公共施設管理のため本年4月1日現在34団体、56施設に指定管理者制度を導入していることから、板橋区及び荒川区を視察し、公認会計士や社会労務士など専門家によるモニタリングの実施など外部審査の必要性を学びました。

市有財産の活用について

茨城県常総市の「トライアル・サウンディング」の調査

公有地や公共施設を民間事業者等に有効に活用してもらうため、お試しで公共施設を使ってもらい、事業化につなげてもらう仕組みを全国の自治体に先駆けて導入した常総市を視察しました。

「市有財産の利活用に関する施策について」市長に提言書を提出

市有財産は市民の貴重な財産であることから、市民サービスの向上と持続可能な財源の確立の観点から効果的な利活用が求められます。これらについての所管事務調査や視察を踏まえ、10月2日に市政に関する提言書を提出しました。

- ①指定管理者制度については、公認会計士による財務状況の検査や社会労務士による労務状況の検査など外部専門家を活用したモニタリングに取り組むこと。
- ②市有財産の活用については、トライアルサウンディング導入の可能性をはじめ、あらゆる手法の導入を検討すること。

タウンミーティングの意見を踏まえ市長に提言

伊賀市議会タウンミーティング(P14参照)で出された問題点や意見を踏まえ、10月2日に住民自治に関する4項目(①地域防災、②地域包括交付金、③住民自治協議会への支援体制、④適正な監査の実施)の提言を市長に提出しました。



正副議長と総務常任委員会正副委員長から市長に提言書を提出しました。

教育民生常任委員会

所管事務調査を踏まえ提言書を提出

子どもたちに対する読書環境の整備及び読書活動の推進について

5月に読書活動推進事業モデル校を含む市内4カ所の小学校の現地調査を行い、各校の先進的な取り組みを紹介していただきました。現地調査や教育委員会との意見交換の結果も踏まえ、学校司書の早期配置とともに、そのための予算措置を講ずること、また、成長とともに年齢に応じた本を配布するセカンドブック事業やサードブック事業の実施に向けた検討を行うことの2点を求める提言書をまとめ、10月2日市長及び教育長に提出しました。

「こどもの居場所づくり」について

不登校問題を中心に所管事務調査を行い、7月には東京都世田谷区の学びの多様化学校「ねいろ」など、9月には崇広中学校の校内教育支援センター及び教育研究センター内の「ふれあい教室」の現地調査を実施しました。学びたい気持ちがありながらも通常学級に通うことができない生徒に対して、現在行っている取り組みをより充実させ、伊賀市でもより多様な選択肢を提供していく必要のあることが共通認識になりました。

提言書は、市議会ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

伊賀市議会ホームページ二次元コード▶



正副議長と教育民生常任委員会正副委員長から市長及び教育長に提言書を提出しました。

産業建設常任委員会

タウンミーティングを踏まえ所管事務調査

消防団のあり方について

住民自治協議会とのタウンミーティング（P14参照）において、消防団の団員確保に大変苦労しているとの声が多くありました。9月17日所管事務調査を行い、来年度から始まる消防団活性化計画見直し作業の中で十分この声を生かしていくことになりました。

衛星画像を使って判定する水道管水漏れ実証実験について

愛知県豊田市で実施している人工衛星とAIによる水道管の健康診断を、7月9日視察しました。豊田市では、漏水修繕作業は、職員（技能労務職）で実施しています。法定耐用年数を超えた管路延長が663kmもあり、毎年の更新延長7.6kmではとても対応できない現状です。対応策として人工衛星とAIによる水道管の健康診断が可能か、実証を始めました。導入から3年間の実証により、5年から7ヶ月への調査期間の短縮、調査費用の大幅な削減（約10%）、69件から259件への漏水発見箇所数の増加が確認されました。まだ課題もありますが、伊賀市も積極的にAI診断を進めていく必要を実感しました。



豊田市での行政視察

議会運営委員会

議会運営委員会は、7月24日、議会改革度調査2023総合ランキングで上位の三重県四日市市議会へオンラインによる視察を行いました。

調査内容は議会改革全般として、情報共有・住民参画・機能強化の取り組みの説明を受けました。

四日市市議会では、政策提言・政策立案までのプロセスや仕組みをしっかりと体系化し実施されており、予算編成に対する政策サイクルの実効性を高める観点から参考になりました。



伊賀市議会タウンミーティング 合併から 20 年 今 目指すべき 住民自治

伊賀市議会ホームページ
二次元コード▶



7月29日（月）ゆめぼりすセンター 2 階大会議室において、35 の住民自治協議会から 59 人の参加者と 21 人の議員が一堂に会し、「地域防災」と「地域包括交付金制度」の 2 つのテーマについて各住民自治協議会の方から地域の実情や意見等を述べていただいた後、参加者と議員で意見交換を行いました。

テーマ1 地域防災

地域内の各種施設と防災協定を結んでいます。

地域の地形や特徴に合った「防災計画」を独自に作成しています。

消防団員不足の課題を克服できるよう自治協で議論しています。

ハザードンの活用、指定避難所のありよう、情報共有の仕方など、市との関係に不安があります。



テーマ2 地域包括交付金制度

交付金の減額については、後継者担い手が不足する中で、自治協の運営や体制づくりに悪い影響が及んでいます。

地域にお願いしたい事業は何か、市は明確に示し、支援すべきです。

毎年の自治協決算の監査に市も責任を果たすべきです。

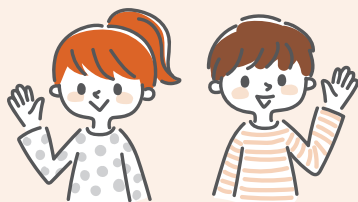


参加者の皆様からのお声をいただく中で、時間の設定や内容の深め方については今後の課題であると認識しております。「開かれた議会」を目指し、よりよいタウンミーティングづくりを進めます。

なお、上記の吹き出しの意見は、発言意図を踏まえ、広報広聴委員会で選択、加筆、修正したものです。

ようこそ伊賀市議会へ！

市内小学校の児童のみなさんが、議場見学に来てくれました！



令和6年度伊賀市中学生議会

みんなが安心して暮らせる伊賀市へ！ 中学生のまっすぐな思いを市政に活かす

伊賀市議会ホームページ
二次元コード▶



10月2日、市議会議場で、伊賀市立中学校10校から選ばれた21人の議員が、一般質問と議事進行を行いました。

伊賀市の未来を担う中学生議員は、観光、通学・学習環境、多様性を尊重したまちづくりなど自由なテーマで、市長や関係部長等と緊張感あふれるやり取りをしました。



中学生議員の感想から

- 市のことがどのように決められているかを知ることができました。良い経験になりました。
- まちのみんなのために働く皆さんのたいへんさが感じられ、すごく格好いいなと思いました。
- 議会を通して政治に関する興味が深まりました。
- 自分のまちについて知ることができ、発言する大切さも学びました。



令和6年12月定例会会議日程（予定）

11月29日（金）	本会議（議案上程等）
12月6日（金）	本会議（一般質問）
9日（月）	本会議（一般質問）
10日（火）	本会議（一般質問）
11日（水）	各常任委員会（予算・決算を除く）
12日（木）	各常任委員会（予算・決算を除く）
13日（金）	各常任委員会（予算・決算を除く）
16日（月）	予算常任委員会
20日（金）	本会議（採決等）

※本会議と予算常任委員会は、午前10時から始まります。
その他の各常任委員会は、本会議初日に決定します。
※日程は、変更になる場合があります。

ご感想をお寄せください

議会だよりや議会のテレビ放送、YouTube をご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

郵送 〒518-8501

伊賀市議会事務局

「議会だより感想」宛

TEL 0595-22-9687

E-mail gikai@city.iga.lg.jp

FAX 0595-24-7901

※伊賀市議会だよりの点字版・録音版を希望される場合は、上記までお問い合わせください。



伊賀市議会ホームページ

伊賀市議会

検索

編集 後記

伊賀市議会は、昨年7月から「通年議会」を導入しました。そのメリットのひとつは、常任委員会がいつでも開けること。定例会議のないときも各委員会所管の課題について、担当部門に説明を求めたり、先進地を視察したりしやすくなりました。伊賀市議会の3つの常任委員会は今年度、そのメリットを生かして活発に所管事務調査を行っています。党派を超えて力を合わせ、市長に積極的な提言をしていることが、紙面から市民のみなさんに少しでも伝わればうれしいです！（森中 秀哲）

次号は令和7年2月1日です

発行：伊賀市議会 編集：伊賀市議会広報広聴委員会

人と地域がつながって イキイキ活動紹介

指定管理者制度を導入した住民自治協議会を紹介するシリーズ第6回。

今回は39自治協議会の中で最大の人口を有する東部地域住民自治協議会。

伊賀市消防本部と伊賀市民体育館に隣接する上野東部地区市民センターを訪ねました。



東部地域住民自治協議会のみなさん

Q：東部地域住民自治協議会の地域はどんな所ですか。

A：戦後開発された緑ヶ丘地域と旧町区の東側地域、そして平成になる頃から土地開発された北側地域に分かれています。そのため、子どもたちは、2小学校3中学校に分かれて通っています。一方、病院、スーパーなどに近く、通院、買い物に便利な地域です。人口は約12,190人と自治協議会の中で1番です。

Q：どのような取り組みをされていますか。

A：平成17年の発足当時から「安心安全で快適なまちづくり」をスローガンに青パト車2台による防犯パトロール、防災訓練、災害時飲用可能井戸の点検、各地区の危険箇所のチェック（タウンウォッチング）、クリーンウォーク（年6回）などに取り組んできました。特に、矢谷川を、蛍が飛び交い、子どもが安心して水にふれる河川にしたいと思っています。



蛍が飛んだらいいな
～矢谷川クリーンウォーク～

Q：地域食堂もあると聞きましたが。

A：地域のお年寄りや子どもたちみんなでつながれる地域密着型の食堂を作りたいと考え、5年前に始めました。食堂の名前は「パプリカ」。住民自治協議会主催で毎月第2日曜日10時から13時まで開催しています。

参加者の30%が子どもたちで、子どもが誘い合って毎回増えています。「パプリカ」という楽曲名つながりでNHKの取材もありました。



美味しいカレーが評判
～地域食堂パプリカ～

Q：指定管理者制度を導入されて、どう変わりましたか。

A：センター職員としては、住民自治協議会の活動がしやすくなり、働きやすくなりました。また、小規模修繕もすぐに対応できるようになりました。

Q：今後の抱負をお聞かせください。

A：自治会単位でタウンウォッチングをして危険箇所を点検し、行政に改善の要望をしたり、「上野東部だより」で住民に周知しています。今後も「安心安全で快適なまちづくり」を進めていきたいと思っています。